

# 地域連携NEWS



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

医療サービス推進課医療連携室  
Vol.74 2018年5月発行

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL03(3964)1141(代表)

FAX03(3964)1392(連携室)

## 膀胱癌手術 (TUR-Bt) 時の光線力学診断 (PDD) 併用開始のご案内



泌尿器科部長  
粕谷 豊



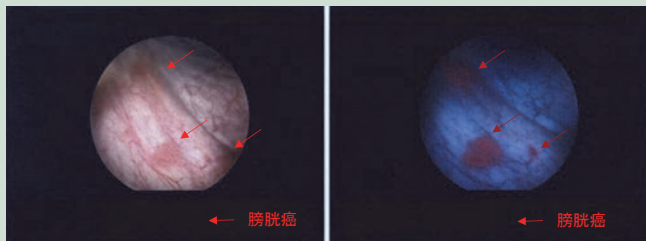
泌尿器科  
永田 卓士

本年1月の保険収載に合わせ、当院では都内でも先駆けて、経尿道的膀胱腫瘍手術時における光線力学診断を始めました旨、ご報告申し上げます。

### 【光線力学診断】

患者様にアミノレプリン酸塩酸塩（商品名：アラグリオ®）20mg/kgの溶解液を手術3時間前に内服していただきます。そして手術時に、特殊な波長の光を術野に照射しますと、癌組織が赤く発光します。それにより、従来は術者の目視と経験、判断に任されていた腫瘍の存在、位置、範囲が、明確に可視化でき、より正確な切除が可能となり、通常50%以上といわれる表在性膀胱癌の再発率の低下が期待されます。

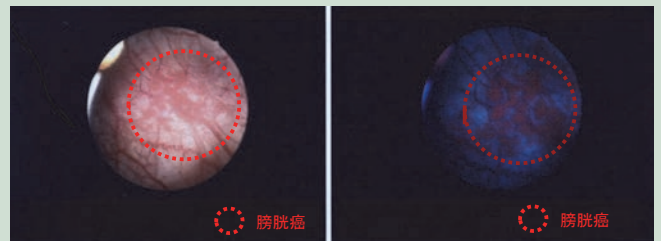
PDD症例1



発光前

発光後

PDD症例2



発光前

発光後

### 【副作用、ご注意】

他の薬剤と同じく、軽度の肝機能異常がみられることがあります。

それに加え、特徴的な副作用としまして、光線過敏症が出現することもあります。

そのため、術後、2日間は、照度500ルクス以上の強い光（直射日光や強力な医療用光源など）への暴露を控えていただくこととなります。

また、光線過敏症を副作用とするその他の薬剤との併用が禁忌とされます。

光線過敏症は多くの薬剤でみられることがある副作用です。ある特定の抗生剤や利尿薬、糖尿病薬、てんかん薬など（例テトラサイクリン系抗生剤、ニューキノロン系抗生剤、スルホンアミド系製剤）を普段から内服されている場合、ないしそれらの薬剤を使用しなくてはならない場合、この光線力学診断が使えないことがあります旨、ご了承ください。

その場合でも、従来通りに豊富な経験と判断にて適切な手術を運用していく所存ですので、安心してご相談くださいませ。

当院では、これからも地域の皆様の長寿と健康のため、「より優しく」「より正確な」治療に積極的に取り組んで参ります。

今後とも、当院泌尿器科を何卒よろしくご厚意申し上げます。

予約専用電話	検査予約	医療連携室	
外来受診予約専用番号 <b>03(3964)4890</b> 対応時間 月～金 9:00～17:00  当センターは紹介予約制です。 ご紹介の際は、紹介状とご予約をお願いいたします。	代表電話番号 <b>03(3964)1141</b> 対応時間 月～金 9:00～17:00 ◎CT、MRI、骨密度(内線2171) ◎RI(SPECT、PET検査)(内線2154) 検査科にてスムーズな予約対応を行っております。	医療連携についての問い合わせ <b>03(3579)6963</b>  医療連携室FAX番号 <b>03(3964)1392</b>  ホームページ： <a href="http://www.tmgig.jp/">http://www.tmgig.jp/</a> (過去の地域連携NEWS、講演会のご案内、医療連携室のご案内はホームページでご覧いただけます。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東武東上線 「大山」駅下車南口・北口より徒歩4分</li> <li>●都営地下鉄三田線 「板橋区役所前」駅下車A3出口より徒歩11分</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>東京都健康長寿医療センター</b></p>

# 腎臓内科・血液透析科のご紹介



腎臓内科部長  
武井 卓



腎臓内科専門部長  
血液透析科部長  
板橋 美津世

腎臓内科・血液透析科ではこの4月より常勤として北澤篤志医師が新たに加わり、常勤医師3名および後期研修医2名の体制で高齢者の腎臓病診療をさらに深めていくべくスタートしました。

加齢に伴いGFRは低下し75歳以上では50%以上が慢性腎臓病（chronic kidney disease: CKD）ステージ3以降（eGFR60ml/min/1.73m<sup>2</sup>未満）に該当するといわれています。CKDでは腎死のみならず心血管疾患へのリスクも増大するため、かかりつけ医と連携してCKDの集学的治療を行っています。腎炎・ネフローゼ症候群・血管炎に力を入れており、ステロイド治療による副作用軽減のためリツキシマブなどの免疫抑制薬を積極的に使用し、高齢者のQOLを損なわない治療の探求に努めています。

加齢と共に低下する腎機能を正確に評価するためのイヌリンクリアランス検査入院（日帰り）、腎不全保存期教育入院、維持透析患者の合併症による入院を行い、腎生検は年間17例、透析導入44例（平成29年度）となっています。腎生検は、腎生検パス（5日間）にて検体採取し、日本医大病理診断科の清水章教授を交え組織診断まで首尾一貫して行っています。

透析室は17床で昨年5月より火木土の午後クールもオープンし月水金・火木土の2クール体制となったほか、今年度はオンラインHDFを増設予定であり合併症の多い高齢者でも安全に透析が行える環境を整備しています。透析室ではフットケア、栄養サポート、運動療法を行い、透析患者のフレイル予防に努めています。

高齢になってからの腎代替療法は身体的・精神的負担が大きくQOLを低下させてしまうこともあります。医療連携を通じて腎臓病の早期発見・早期治療に邁進していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



足漕ぎ運動器具を用いた透析中の運動療法

# 連携医療機関のご紹介 長瀬クリニック



長瀬クリニック院長  
長瀬 満夫

1999年に開業しました。開院当初から、電子カルテを使用し、同一の検査会社に依頼し検査記録を含む全データを保存しています。第1標榜科は整形外科です。骨軟部腫瘍、そして腫瘍欠損部補填のために生体材料を専門にしていました。生体材料のコントロールとして尿酸塩結晶を用い、留学後は主に痛風、関節リウマチの患者さんを診させていただいています。痛風などについては現在も、ガイドラインへの関与や発表、原稿などで学会活動を継続しています。開業医の喜びは、長く患者さんとお付き合いできることです。以前に、貴院の先生から「地元の先生は、ワーファリンくらい使っただけだと困ります」と直接、お電話をいただいてからは、さらにいろいろな講演会に出席させていただき、近隣のご高齢者のお役にたてるようにしています。貴院のCPCにも出席させていただいています。各専門家が、多彩、多様な意見を交わしている、様子はとても勉強になります。貴院からの初期研修医が、当院へ地域医療研修で来てくださることもあり、私も共に学ばせていただいています。ケアマネージャー資格も一時期、取得し勉強してきました。私が開業したころ

に比べても、ご高齢者への医療を含むヘルスケアのニーズは増大しているのを感じます。貴院が健康長寿医療センターと改称されたのも、今さらに理解できるようになりました。人生の後半および終焉の時に、日本一あるいは世界一の貴院があるのは、この地域の人々はとても幸せであり、紹介させていただける当院、私にとってもありがたいことです。いつもお世話になり感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。

**長瀬クリニック** 〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-20-12  
TEL: 03-3932-1050 FAX: 03-3932-3919

**診療科**：整形外科・リウマチ科・内科・リハビリテーション科

**休診日**：月曜・木曜・土曜午後・日曜・祝日

**診療時間**：

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～11:30	○	○	○	○	○	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	○	○	○

**ホームページ**：http://www.nagase-net.com

**アクセス**：東武東上線 東武練馬 北口より徒歩8分